

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	短期インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	4MG04		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	材料システム工学科(2017年度以降入学生、但し、令和4年度は材料工学科を含む)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	受入先企業での実習書				
担当教員	小袋 由貴				
到達目標					
1. 専門知識や技術を実際の現場で確認することができる。 2. 実際の職場体験を将来の進路決定に役立てることができる。 3. 社会人としての心構えが理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 インターンシップ報告書	自分の知見を含めた報告書の作成ができる。	報告書の作成ができる。	報告書の作成ができない。		
評価項目2 報告会での発表	自分の知見を含めた発表ができる。	発表ができる。	発表ができない。		
評価項目3 企業担当者の評価	優秀な評価を得る。	良好な評価を得る。	評価されない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	これまで学習してきた工業技術や知識を企業で実践することで、技術の理解と社会の関わりを体験する。指導者との意見交換や報告書の作成を通じて交渉力や表現力を高める。 実務経験のある教員による授業科目：この科目は、実務を行っている企業の担当者が、その経験を活かして行う授業である。				
授業の進め方・方法	受入企業先の実習テーマについて目的と内容を明確に把握すること。 受入企業の教育方針に基づいた実習を受けること。 履修者は、短期インターンシップ報告会での発表を課す。				
注意点	到達目標に記載した内容を主な評価基準とする。 実習先での評価75%、最終報告会25%とし、総合的に判断して60点以上を合格とする。 再試験は実施しない。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、前期夏季休暇期間を利用して1~3週間にわたり個々に指導を受ける。	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、個々に指導を受けることができる。	
		2週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		3週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		4週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		5週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		6週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		7週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		8週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
	2ndQ	9週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		10週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		11週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		12週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		13週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		14週	実習受入企業などの実習・教育企画に基づき、実習を行う。	実習・教育企画に基づき、実習を行うことができる。	
		15週	短期インターンシップ報告会	報告会でプレゼンテーションができる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			

4thQ	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前3,前13,前14
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	3	前12,前13,前14
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前10,前11
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前10,前11
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前7,前8,前9,前15
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前15
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前1,前2,前3,前15
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前1,前2,前3,前7,前8,前9,前15
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前1,前2,前3,前10,前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	25	0	0	0	75	100
基礎的能力	0	25	0	0	0	75	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0